

# 議会の評価

## 令和6年度事業評価報告書

- ・ 令和5年度決算審査分 事業評価
- ・ 過年度事業評価再評価分 事業評価

瑞浪市議会では、瑞浪市議会基本条例第7条2項「議会は、決算審査に当たって、市長等執行機関が執行した事業等の評価を行うものとする」の定めにより、平成26年から毎年事業評価を実施しています。

令和5年度決算審査における下記6事業及び令和5年度事業評価において低評価であった下記2事業を取り上げ、全議員による個別評価を基に、予算決算委員会の場で評価を確定しました。

### ■令和5年度決算審査分 事業評価

番号	事業名
1	防災資機材整備事業
2	介護予防普及啓発事業
3	市単側溝等道路改良事業
4	地場産品ブラッシュアップ事業
5	災害防止森林整備事業
6	教育支援センター運営経費

### ■過年度事業評価再評価分 事業評価

番号	事業名
1	夢づくり市民活動補助事業
2	多面的機能支払交付金事業

# 令和6年度事業評価報告書 目次

## 令和5年度決算審査分 事業評価

総合評価表（議員別事業評価） . . . . . 1

### 事業評価書・議員別評価一覧表

1 防災資機材整備事業 . . . . .	2~3
2 介護予防普及啓発事業 . . . . .	4~5
3 市単側溝等道路改良事業 . . . . .	6~7
4 地場産品ブラッシュアップ事業 . . . . .	8~9
5 災害防止森林整備事業 . . . . .	10~11
6 教育支援センター運営経費 . . . . .	12~13

## 過年度事業評価再評価分 事業評価

### 事業評価書

1 夢づくり市民活動補助事業 . . . . .	14
2 多面的機能支払交付金事業 . . . . .	14

# 令和5年度決算審査分 事業評価



## 令和5年度決算審査分 総合評価表（議員別事業評価）

評価事業	福永泰子	犬塚利彦	奥村一仁	棚町潤	柴田幸一郎	三輪田幸泰	辻正之	樋田翔太	渡辺康弘	大久保京子	小木曾光佐子	成瀬徳夫	榛葉利広	熊谷隆男	加藤輔之	柴田増三	総合評価
防災資機材等整備事業	53	65	46	74	60	74	67	74	76	74	74	74	69	74	67	76	C (68.6)
介護予防普及啓発事業	50	53	55	43	69	74	67	72	55	74	72	86	55	74	67	62	C (64.2)
市単側溝等道路改良事業	67	74	62	53	50	81	53	62	67	86	67	72	50	67	72	93	C (67.3)
地場産品ブラッシュアップ事業	81	43	76	64	76	62	81	100	76	71	57	71	64	76	76	81	B (72.2)
災害防止森林整備事業	67	72	46	62	57	67	67	74	81	74	67	86	74	67	79	62	C (68.9)
教育支援センター運営経費	74	86	86	58	74	67	79	100	88	74	86	86	67	79	69	86	B (78.8)

A	B	C	D	E
85～100	70～84	50～69	35～49	0～34

## 令和5年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業名	① 防災資機材等整備事業					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	10	10	5	14	14	<b>C (53)</b>
犬 塚 利 彦	10	10	10	21	14	<b>C (65)</b>
奥 村 一 仁	10	10	5	7	14	<b>D (46)</b>
棚 町 潤	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
柴 田 幸 一 郎	10	10	5	21	14	<b>C (60)</b>
三 輪 田 幸 泰	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
辻 正 之	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
樋 田 翔 太	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
渡 邊 康 弘	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
大 久 保 京 子	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
小 木 曾 光 佐 子	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
成 瀬 徳 夫	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
榛 葉 利 広	10	5	5	28	21	<b>C (69)</b>
熊 谷 隆 男	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
加 藤 輔 之	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
柴 田 増 三	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
平 均 値	10	9.1	5.3	22.3	21.9	<b>C (68.6)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	①防災資機材整備事業	危機管理課
-------	------------	-------

### 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	16	10.0
	②	(5)	0	
	③	(0)	0	
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	13	9.1
	②	(5)	3	
	③	(0)	0	
目標指標 目標指標は 妥当か	①	(10)	1	5.3
	②	(5)	15	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	0	22.3
	②	(28)	6	
	③	(21)	8	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	1	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	0	21.9
	②	(28)	6	
	③	(21)	6	
	④	(14)	4	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

### 総合評価

総合評価	
C (68.6)	

評価基準	評価数
A きわめて良好である	0
B 良好である	9
C おおむね適正である	6
D 問題がある	1
E かなり問題がある	0

### 評価結果

必要性 実施主体	防災資機材の確保には市が主体となって積極的に取り組むべきであり、事業の必要性、重要性は共に高い。
目標指標	備蓄品は適切に更新すべきであるため目標指標は妥当と考えるが、備蓄管理システムの導入により効率的に備蓄品管理が行えるため、今後は具体的な数値を目標設定とすべきと考える。また、市民の防災意識向上のために倉庫の場所、備蓄物の認知度を指標にするという意見もあった。
効率性 成果	消費期限前の備蓄品を避難訓練等で活用するなど備蓄の必要性がアピールできている。また、県の避難所運営推進補助金を利用し、女性視点の備蓄品整備を迅速に行ったことも評価したい。 市民が防災倉庫の場所やどんな備蓄品があるかを知らないことが多く、市民への認知度を高めるとともに家庭での備えの充実など防災への意識が向上されるよう取り組まれたい。

## 令和5年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業	② 介護予防普及啓発事業					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	5	5	5	21	14	<b>C (50)</b>
犬 塚 利 彦	10	10	5	14	14	<b>C (53)</b>
奥 村 一 仁	10	5	5	14	21	<b>C (55)</b>
棚 町 潤	5	10	0	14	14	<b>D (43)</b>
柴 田 幸 一 郎	10	5	5	21	28	<b>C (69)</b>
三 輪 田 幸 泰	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
辻 正 之	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
樋 田 翔 太	10	10	10	21	21	<b>B (72)</b>
渡 邊 康 弘	10	5	5	14	21	<b>C (55)</b>
大 久 保 京 子	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
小 木 曾 光 佐 子	10	10	10	21	21	<b>B (72)</b>
成 瀬 徳 夫	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
榛 葉 利 広	10	5	5	21	14	<b>C (55)</b>
熊 谷 隆 男	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
加 藤 輔 之	10	5	10	21	21	<b>C (67)</b>
柴 田 増 三	10	5	5	21	21	<b>C (62)</b>
平 均 値	9.4	7.8	5.9	21.0	20.1	<b>C (64.2)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	②介護予防普及啓発事業	高齢福祉課
-------	-------------	-------

### 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	14	9.4
	②	(5)	2	
	③	(0)	0	
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	9	7.8
	②	(5)	7	
	③	(0)	0	
目標設定 目標指標は妥 当か	①	(10)	4	5.9
	②	(5)	11	
	③	(0)	1	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	0	21.0
	②	(28)	4	
	③	(21)	8	
	④	(14)	4	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	0	20.1
	②	(28)	2	
	③	(21)	10	
	④	(14)	4	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

### 総合評価

総合評価
C (64.2)

評価基準		評価数
A	きわめて良好である	1
B	良好である	5
C	おおむね適正である	9
D	問題がある	1
E	かなり問題がある	0

**必要性**  
 必要/妥当性が高い: 87.5%  
 必要/妥当性がある: 12.5%  
 必要/妥当性が低い: 0.0%

**実施主体**  
 極めて高い: 56.2%  
 妥当性がある: 43.8%  
 妥当性が低い: 0.0%

**目標指標**  
 極めて妥当性が高い: 25.0%  
 妥当性がある: 68.7%  
 妥当性が低い: 6.3%

### 評価結果

必要性 実施主体	高齢化率の高まりが予測されているなか、健康寿命を延伸し医療費や介護保険の保険給付を抑制するために必要な事業の一つである。市民の意識改革も必要ではあるが、介護予防教室の需要は高まっているといえる。
目標指標	コロナ禍における目標値（介護認定率）に対して、実績は毎年上回っていたため、高く設定しても良かったのではない。 令和6年度から目標指標を再考されたが、今後は介護保険保険者全員に対し、フレイル予防に対する意識向上への取り組みが必要と考える。
効率性	介護予防教室の参加者が減少傾向にあり固定化されてきているため、市民ニーズに合った魅力ある教室や講座の開催、またフレイルの進行が懸念される方へのアウトリーチが必要である。特に参加の少ない男性参加者が増えるような魅力ある教室の開催を検討いただきたい。
成果	今後も高齢化が進むため、自治会やまちづくり組織等と連携した地域ぐるみの活動が必要である。各地域の公民館で毎月介護予防教室等を行うなど、これまで参加できなかった高齢者が毎月定期的に行う通いの場に参加できるような仕組みづくりも必要と考える。

## 令和 5 年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業	③ 市単側溝等道路改良事業					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
犬 塚 利 彦	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
奥 村 一 仁	10	10	0	28	14	<b>C (62)</b>
棚 町 潤	10	10	5	14	14	<b>C (53)</b>
柴 田 幸 一 郎	10	5	0	21	14	<b>C (50)</b>
三 輪 田 幸 泰	10	10	5	28	28	<b>B (81)</b>
辻 正 之	10	10	5	14	14	<b>C (53)</b>
樋 田 翔 太	10	10	0	28	14	<b>C (62)</b>
渡 邊 康 弘	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
大 久 保 京 子	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
小 木 曾 光 佐 子	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
成 瀬 徳 夫	10	10	10	21	21	<b>B (72)</b>
榛 葉 利 広	10	5	0	21	14	<b>C (50)</b>
熊 谷 隆 男	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
加 藤 輔 之	10	10	10	21	21	<b>B (72)</b>
柴 田 増 三	10	10	10	35	28	<b>A (93)</b>
平 均 値	10	9.4	5.0	22.8	20.1	<b>C (67.3)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	③市単側溝等道路改良事業	土木課
-------	--------------	-----

## 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	16	10.0
	②	(5)	0	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	14	9.4
	②	(5)	2	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
目標設定 目標指標は妥 当か	①	(10)	4	5.0
	②	(5)	8	
	③	(0)	4	

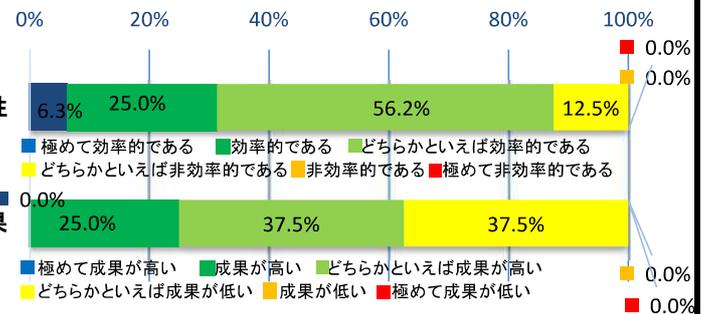
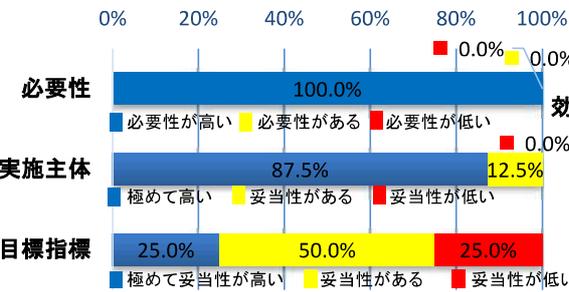
評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	1	22.8
	②	(28)	4	
	③	(21)	9	
	④	(14)	2	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	0	20.1
	②	(28)	4	
	③	(21)	6	
	④	(14)	6	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

## 総合評価

総合評価  <b>C (67.3)</b>
-----------------------------

評価基準	評価数
A 甚だ良好である	2
B 良好である	4
C おおむね適正である	10
D 問題がある	0
E かなり問題がある	0



## 評価結果

必要性 実施主体	市以外の実施は不可能であり、公共道路の安全性を確保するためにも重要な事業である。
目標指標	地区要望による道路改良は、この事業で対応しない改修もあることから全体像と成果が把握しにくいいため、目標指標は妥当性が低いといえる。
効率性 成果	各地区からの要望事項について緊急性や安全性の確保を考慮し、優先順位をつけて事業が進められているとのことだが、対象外となる要望は回答書に理由を明確に示して各地区に伝えることが必要である。また、優先順位のつけ方を明確にして要望箇所を管理する必要があると考える。 毎年各地域から提出される要望により分母が変動することは理解できるが、目標値60%に実績を合わせているように見える。1年を通じて道路への要望の受け付けるなど、柔軟な対応も検討されたい。

## 令和5年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業	④ 地場産品ブラッシュアップ事業					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	10	5	10	21	35	<b>B (81)</b>
犬 塚 利 彦	5	5	5	14	14	<b>D (43)</b>
奥 村 一 仁	10	5	5	21	35	<b>B (76)</b>
棚 町 潤	5	5	5	21	28	<b>C (64)</b>
柴 田 幸 一 郎	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
三 輪 田 幸 泰	5	5	10	21	21	<b>C (62)</b>
辻 正 之	10	10	5	28	28	<b>B (81)</b>
樋 田 翔 太	10	10	10	35	35	<b>A (100)</b>
渡 邊 康 弘	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
大 久 保 京 子	5	5	5	28	28	<b>B (71)</b>
小 木 曾 光 佐 子	5	5	5	21	21	<b>C (57)</b>
成 瀬 徳 夫	5	5	5	28	28	<b>B (71)</b>
榛 葉 利 広	5	5	5	28	21	<b>C (64)</b>
熊 谷 隆 男	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
加 藤 輔 之	10	5	5	28	28	<b>B (76)</b>
柴 田 増 三	10	5	10	28	28	<b>B (81)</b>
平 均 値	7.8	5.6	6.3	25.4	27.1	<b>B (72.2)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	④地場産品ブラッシュアップ事業	シティプロモーション課
-------	-----------------	-------------

## 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	9	7.8
	②	(5)	7	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	2	5.6
	②	(5)	14	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
目標設定 目標指標は妥 当か	①	(10)	4	6.3
	②	(5)	12	
	③	(0)	0	

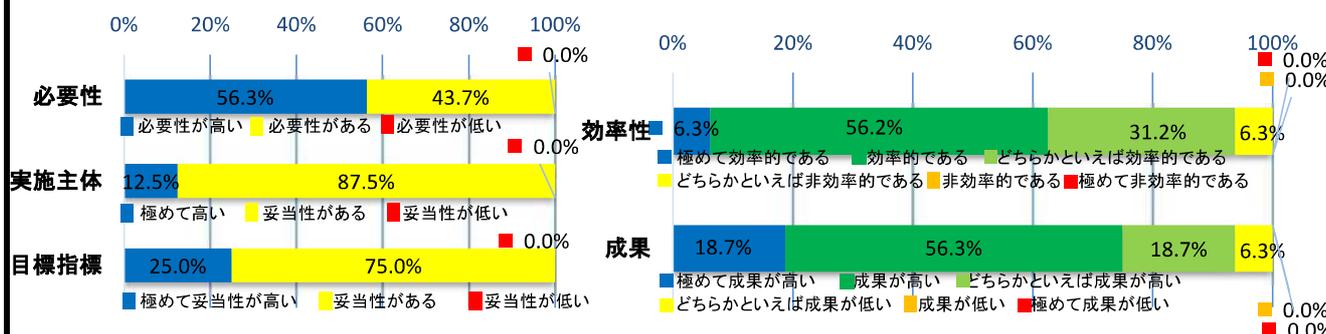
評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	1	25.4
	②	(28)	9	
	③	(21)	5	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	3	27.1
	②	(28)	9	
	③	(21)	3	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

## 総合評価

総合評価
B (72.2)

評価基準	評価数
A きわめて良好である	1
B 良好である	10
C おおむね適正である	4
D 問題がある	1
E かなり問題がある	0



## 評価結果

必要性 実施主体	<p>地場産品のブラッシュアップや新しい産品開発により「地元企業の活性化」と「市民のシビックプライドの醸成」の複合効果が見込まれる事業である。</p> <p>一方、商品開発や商品改良は企業の努力により行うべきとの意見もあった。</p>
目標指標	<p>参加企業から「売上増だけでなく社員の意識改革が図られ、成果があった。」と意見があった。ブラッシュアップされた地場産品がHP等で魅力的に発信され、ブランド化推進を目的としての目標指標は妥当といえる。一方、若い世代への認知度向上やシビックプライドの醸成に繋がっているかが不明なため、それを測ることができる指標に設定した方がいいとの意見もあった。</p>
効率性 成果	<p>地域資源のブランド化推進により、参加企業の意識改革や市内産業の活性化など、間接的な成果があったと考える。また、開発商品の対外的なアピールが、ふるさと納税の最高額更新に寄与したものであり、瑞浪市の認知度を高められたと評価する。</p> <p>デジタル田園都市交付金を利用した令和6年度までの事業と承知している。今後の事業継続では、本市の若者のシビックプライドの醸成が図られ、定住促進に繋がられるような目標設定も検討されたい。また、参加企業の販売拡大に繋がられるよう経済部や商工会議所との連携も検討されたい。</p>

## 令和5年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業	⑤ 災害防止森林整備事業					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
犬 塚 利 彦	10	10	10	21	21	<b>B (72)</b>
奥 村 一 仁	10	5	10	7	14	<b>D (46)</b>
棚 町 潤	10	5	5	14	28	<b>C (62)</b>
柴 田 幸 一 郎	5	5	5	21	21	<b>C (57)</b>
三 輪 田 幸 泰	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
辻 正 之	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
樋 田 翔 太	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
渡 邊 康 弘	10	5	10	28	28	<b>B (81)</b>
大 久 保 京 子	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
小 木 曾 光 佐 子	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
成 瀬 徳 夫	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
榛 葉 利 広	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
熊 谷 隆 男	10	10	5	21	21	<b>C (67)</b>
加 藤 輔 之	10	10	10	28	21	<b>B (79)</b>
柴 田 増 三	10	5	5	21	21	<b>C (62)</b>
平 均 値	9.7	8.4	6.6	21.4	22.8	<b>C (68.9)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	⑤災害防止森林整備事業	農林課
-------	-------------	-----

## 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	15	9.7
	②	(5)	1	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	11	8.4
	②	(5)	5	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
目標設定 目標指標は妥 当か	①	(10)	5	6.6
	②	(5)	11	
	③	(0)	0	

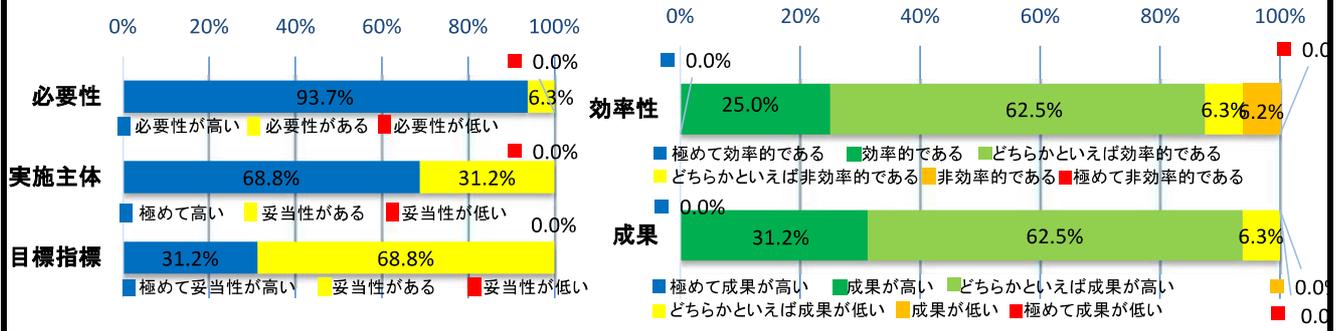
評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	0	21.4
	②	(28)	4	
	③	(21)	10	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	1	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	0	22.8
	②	(28)	5	
	③	(21)	10	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

## 総合評価

総合評価
C (68.9)

評価基準	評価数
A きわめて良好である	1
B 良好である	6
C おおむね適正である	8
D 問題がある	1
E かなり問題がある	0



## 評価結果

必要性 実施主体	地権者による森林管理が困難になってきている現状で、暴風、豪雨、豪雪による公共施設への影響も増えている。災害を未然に防ぎ、市民生活の安心安全を守るために必要性の高い事業である。
目標指標	森林環境税の活用により市のみが実施できる事業である。目標指標が倒木事案の減少に対し実績が伐採件数であるため、本来の危険樹木需要件数を把握して目標値とすべきではないかと考える。
効率性	事業の課題を「被害を受ける施設や被害を与える樹木の判断が難しい」としているが、事業効果を高めるためには伐採希望箇所を先に把握し、危険度を判定して優先順位をつける必要がある。しかしながら、地権者に危険山林の伐採の許可を得て費用負担もある中で自主的に行う伐採に補助をするもののため受付順でよいのではないかと意見もあった。
成果	毎年予算上限額に近い事業費実績があり需要は高いといえるため、予算の増額を検討する予知がある。また、森林環境譲与税の交付基準について、人口ではなく森林面積とするよう国へ要望していく必要がある。

## 令和5年度決算審査分 議員別評価一覧表

評価事業	⑥ 教育支援センター運営経費					
議 員 名	必 要 性	実 施 主 体	目 標 指 標	効 率 性	成 果	議 員 別 評 価
福 永 泰 子	10	10	5	21	28	<b>B (74)</b>
犬 塚 利 彦	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
奥 村 一 仁	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
棚 町 潤	10	10	10	14	14	<b>C (58)</b>
柴 田 幸 一 郎	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
三 輪 田 幸 泰	5	10	10	21	21	<b>C (67)</b>
辻 正 之	10	10	10	21	28	<b>B (79)</b>
樋 田 翔 太	10	10	10	35	35	<b>A (100)</b>
渡 邊 康 弘	10	10	5	28	35	<b>A (88)</b>
大 久 保 京 子	10	10	5	28	21	<b>B (74)</b>
小 木 曾 光 佐 子	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
成 瀬 徳 夫	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
榛 葉 利 広	10	5	10	21	21	<b>C (67)</b>
熊 谷 隆 男	10	10	10	28	21	<b>B (79)</b>
加 藤 輔 之	5	5	10	21	28	<b>C (69)</b>
柴 田 増 三	10	10	10	28	28	<b>A (86)</b>
平 均 値	9.4	9.4	8.8	25.4	25.8	<b>B (78.8)</b>

# 令和5年度決算審査分 事業評価書

評価事業名	⑥教育支援センター運営経費	学校教育課
-------	---------------	-------

### 項目別評価結果

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
必要性 市民ニーズ/ 目指す都市像	①	(10)	14	9.4
	②	(5)	2	
	③	(0)	0	
実施主体 市が行う妥当 性はあるか	①	(10)	14	9.4
	②	(5)	2	
	③	(0)	0	
目標設定 目標指標は妥 当か	①	(10)	12	8.8
	②	(5)	4	
	③	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
効率性 事業手法の効 率は良いか/ コスト削減の 余地はないか	①	(35)	1	25.4
	②	(28)	9	
	③	(21)	5	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

評価項目	評価基準	配点	評価数	平均評価点
成果 目的の達成状 況	①	(35)	2	25.8
	②	(28)	8	
	③	(21)	5	
	④	(14)	1	
	⑤	(7)	0	
	⑥	(0)	0	

### 総合評価

総合評価
B (78.8)

評価基準		評価数
A	きわめて良好である	7
B	良好である	5
C	おおむね適正である	4
D	問題がある	0
E	かなり問題がある	0

### 評価結果

必要性 実施主体	全国的に不登校の児童生徒は増加傾向にあり、コロナ禍を経て不登校の児童、生徒の多様化もみられる。本市においても、不登校の児童生徒は決して少ないわけではない。クラスに入りづらい、学校へ行きたくないという児童や生徒、また保護者に対し相談員によるサポートは必要不可欠であり重要な事業である。市が実施する妥当性は高い。
目標指標	学校を休んでも良いという選択肢もあるため、出現率1%以下という目標値は現実的な目標設定である。校内教育支援センターでは、相談員により一人ひとりに寄り添った支援が行われており、学校での居場所を確保し、不登校の未然防止が図られている。また、校外及び校内支援センターの取り組みにより、児童生徒の学びの意思を高め、人格育成が促されている。
効率性 成果	多様化する不登校児童生徒のニーズに応えるために、相談員は限られた時間の中で一人ひとりに丁寧に対応され、ケース会議や保護者指導と多くの業務を担われている。成果が見えにくい事業だが、相談員の適切で真摯な対応と、文部科学省の指針に示されている教育支援センターと各学校との連携を強化する取り組みを高く評価する。 不登校の児童生徒の社会的自立には、児童生徒と保護者へのさらなる支援が必要であり、教育支援センターの充実が肝要である。相談員数や勤務体制を見直し、支援の拡充を図るよう検討されたい。



# 過年度事業評価再評価分 事業評価



# 過年度事業評価【再評価分】事業評価書

昨年の事業評価にて「問題があると評価した事業」及び「おおむね適正ではあるが、事業の実施に改善が必要な注目する事業」と評価した次の2事業について、継続して議会で確認を行うために再度事業評価を実施しました。

評価対象事業	夢づくり市民活動補助事業	市民協働課												
<p><b>事業状況及び改善状況の評価</b></p> <table border="1"> <caption>事業状況及び改善状況の評価</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 極めて良好である</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>B 良好である</td> <td>18.8%</td> </tr> <tr> <td>C おおむね適正である</td> <td>68.7%</td> </tr> <tr> <td>D 問題がある</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>E かなり問題がある</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>		評価	割合	A 極めて良好である	0.0%	B 良好である	18.8%	C おおむね適正である	68.7%	D 問題がある	12.5%	E かなり問題がある	0.0%	<p><b>改善状況等の評価</b></p> <p>昨年の事業評価で課題としていた補助金活用団体の拡大に対し、まちづくりに意欲のある市民との関係構築や事業周知に取り組まれていることを確認できたが、新規団体による活動には至っていないことから評価にばらつきがあった。</p> <p>今後、伴走型支援の実施について市民団体に積極的に周知するとともに、補助金の申請方法への支援についても注力されたい。</p>
評価	割合													
A 極めて良好である	0.0%													
B 良好である	18.8%													
C おおむね適正である	68.7%													
D 問題がある	12.5%													
E かなり問題がある	0.0%													
<p><b>次年度の方向性・事業継続に関する意見</b></p> <p>市民活動を活性化させ、市を活気づけるためにも必要な事業である。市民団体の設立まで長期に取り組む必要があるが、団体の設立から発展そして継続まで寄り添った丁寧なサポートを望む。また、事業費が少額な活動の場合は補助率の嵩上げを行う等、小規模団体が利用しやすい補助金とする検討も必要と考える。</p>														

評価対象事業	多面的機能支払交付金事業	農林課												
<p><b>事業状況及び改善状況の評価</b></p> <table border="1"> <caption>事業状況及び改善状況の評価</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 極めて良好である</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>B 良好である</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>C おおむね適正である</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>D 問題がある</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>E かなり問題がある</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>		評価	割合	A 極めて良好である	0.0%	B 良好である	37.5%	C おおむね適正である	50.0%	D 問題がある	12.5%	E かなり問題がある	0.0%	<p><b>改善状況等の評価</b></p> <p>交付金申請書類の作成など事務処理の煩雑さが課題であったが、個別に書類作成のサポートを行ったり、県に対して書類の簡素化の要望するなどの取り組みがあることを評価している。県への要望は、実際に事務処理の簡素化が行われるまで続けられたい。</p>
評価	割合													
A 極めて良好である	0.0%													
B 良好である	37.5%													
C おおむね適正である	50.0%													
D 問題がある	12.5%													
E かなり問題がある	0.0%													
<p><b>次年度の方向性・事業継続に関する意見</b></p> <p>農地や農業用施設を守るために県補助を活用した効率的な事業である。農業従事者の高齢化により農地の維持管理が困難になっており、団体へ委託するケースが増えている。</p> <p>農地の管理を行う団体への支援は必要であるため、広く市民に周知を行い活用団体の増加促進に一層取り組まれたい。</p>														